



日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

日本女子大学文学部トークイベント

「好き」を「勉強」するって、 どういうこと？ イギリス児童文学、もう一歩先の楽しみ方

アリス、プーさん、ナルニア国…。

児童文学は大好きだけど、大学で「勉強」したり、
それについて「研究」したりするってどういうこと？

好きなように読めばいいんじゃないの？

高校までの国語や英語の授業とどう違うの？

児童文学と一般の文学と、どこが違うの？

こんな疑問をお持ちのかたが多いかもしれません。

長年にわたり、まさに、大学で児童文学を
「勉強」すべきものとして教え、「研究」してきた二人が、
そんな問いをめぐって語ります。

私たちのトークをお聞きになりながら、児童文学と
それをめぐる問題をいっしょに考えてみませんか？



佐藤和哉

日本女子大学文学部英文学科教授

イギリスの子どもの本と、その日本への影響について、歴史研究と文学研究の両方の視点から考えてきました。
著書に、『近代イギリスを読む－文学の語りと歴史の語り』（法政大学出版局、共著）、『教室の英文学』（研
究社、共著）、Robinson Crusoe in Asia（Palgrave Macmillan、共著）、『〈読む〉という冒険』『物語、英語
で読んでみない？』（いずれも岩波書店）、訳書に『ジゼルという名のバレエ』（新書館）などがあります。



川端有子

日本女子大学家政学部児童学科教授

英語圏を中心に児童文学と「子ども観」の変遷などについて研究しています。

著書に『少女小説から世界が見える』『図説 ヴィクトリア朝の女性と暮らし』（いずれも河出書房新社）、『写真家ジュ
リア・マーガレット・キャメロン』『小説家フランシス・ホジソン・バーネット』（いずれも玉川大学出版部）、『映
画になった児童文学』（玉川大学出版部、共著）、訳書に『絵本の「言葉と絵」を読む』（玉川大学出版部）などがあります。

↓日時：2025年10月5日(日)14時～

↓会場：紀伊國屋書店 新宿本店3階 アカデミック・ラウンジ

↓料金：無料 ↓主催：日本女子大学文学部

* 着席での参加は定員(25名)に達し次第、受付終了となります。

お申し込みは
こちら▶

